



勝常寺

福島県河沼郡湯川村

勝常寺の概観

勝常寺は大同二年（807）伝教大師の論敵として有名な法相宗の碩学徳一上人によって開かれた東北を代表する古刹である。創建当初の寺院名は詳でないが中世以後勝常寺と称している。創立された当時は七堂伽藍が備わり、盛時には多くの附属建物が建ち並んで12の坊舎と百余カ寺の子院を有する一大寺院であったと伝えられているが、現在残されている建物は元講堂（薬師堂）を除く外は近世以後の建物であり、本坊（客殿）庫裏、中門等で仏像も30余軀ある。

このうち重要文化財に指定を受けているものに元講堂と仏像12軀がある。講堂は応永5年（1398）の再建で会津中央薬師堂と呼ばれている。

仏像は何れも今から約1,170余年前、勝常寺が創立された当時から伝えられたもので、これだけ多くの平安初期の仏像が1ヵ所に保存されているのは我が国では珍しいことである。

創建時の主要建物の位置は伝承、焼け土、道路等に依り大体は想像できる。講堂を起点として南に向って大体等間隔に金堂・中門・南大門の位置が一直線上に立ち並んでいたことが想定出来るし、三重の塔跡は中門のそと東側にある。講堂の近くにあったはずの経蔵・鐘楼・僧坊等の位置は明瞭でない。

本坊は現本坊の区画内に南向に建てられている。中門の前の路を通り本坊へ達したと考えられる。東大寺に似た伽藍配置であったらしい。

勝常寺年表

年 代	時代	事	項	年 代	時代	事	項
B.C.3000 2000 1000 500	縄文時代	○勝常下川原遺跡（縄文後期）			安土・桃山時代	○天正の始め覚成僧都の墓（お壇）建立。	
A.D. 1 100 200 300	弥生時代	○勝常南お壇遺跡、勝常寺周辺（弥生中期）				○天正17年（1589）6月5日、羣名義広の軍、伊達政宗と磨上原に戦い敗走する。この戦いの余波を受け掠奪にあい、什器・宝物等ことごとく失う。加えて本坊焼失する。戦後処理により寺領もまたことごとく没収される。	
	古墳時代	○大塚山古墳築造される。		1600		○慶長19年（1614）6月15日、勝常寺常住日道上人、熊野新宮遷座式の大導師を勧める。	
		○大陸、半島方面から会津への植民始まる。			江戸時代	○慶長年間（1596～1614）本坊再建。	
		○勾玉等出土（勝常寺周辺…字堂後地内より）				○寛永15年（1638）勝常寺修理成り、供養会行われる。	
400 500 600 700	飛鳥時代	○欽明天皇元年、梁国の僧青岩会津に來り、高寺山に草庵を建て、会津に仏教を伝える。				○寛文年間（1661～1672）から大修理屋根替え等の費用支出を藩庁に出願し、認可され幕末に至る。このころから度々火災が起こり、諸堂逐次焼失する。	
	奈良時代					○天和元年（1681）11月梵鐘を鑄なおす。（この梵鐘は太平洋戦争のため供出する）	
800		○大同2年（807）徳一菩薩勝常寺（古名清水寺）を建てる。一説には弘仁元年（810）ともいう。薬師三尊像その他の仏像成る。		1700	時代	○貞享元年（1684）勝常寺村を勝常村と改称される。	
	平安時代	○この頃徳一菩薩、弘法大師からの手紙を受けとる。伝教大師との論争始まる。（三一権実論争）				○享保6年（1721）7月17日、小林傳八郎観音堂に大額奉納。その後観音堂焼失、本尊十一面観音とこの額のみが残る。	
900		○承和9年（842）11月8日徳一菩薩入寂（76歳）する。		1800		○十二天画像・真言八祖大師画像類の絵画制作される。（昭和56.3.27湯川村文化財指定）	
		○勝常寺衰微し始める。				○文化7年（1810）9月本坊客殿再建。	
1000	時代	○11世紀の終りごろから12世紀始めにかけて恵日寺興隆し始める。高寺山恵隆寺と対立する。		1868		○文政元年（1818）7月本坊庫裏再建。	
1100		○恵日寺全盛期（12世紀）				○慶応4年鳥羽伏見の戦、4月政体書発布。7月江戸を東京と改称。9月8日明治と改元。10月江戸城を皇居とする。	
		○養和元年（1181）恵日寺衆徒頭乗丹坊越後の城四郎長茂の請に応じ、越後及び会津四郡の兵を率いて木曾義仲の軍と信州横田河原に戦い敗死する。		1900		○明治35年（1902）9月28日本坊庫裏暴風にて倒潰する。この年古社寺保存法制定される。	
1185		○文治元年（1185）平氏滅亡、源頼朝鎌倉に幕府を開く。			近代	○明治36年（1903）4月15日、薬師三尊像・十一面観世音像国宝に指定される。薬師堂は特別保護建造物に指定される。	
1192	鎌倉時代					○大正12年（1923）中央薬師堂解体大修理行われる。	
		○正応年間（1288～1293）京都の御室御所仁和寺より玄海僧都下向、勝常寺を中興し中興第一祖となり、以来真言宗を学ぶ。				○昭和2年（1927）4月25日、聖観音像・四天王像・地藏菩薩像が国宝に指定される。	
		○このころの会津の太守、寺名を勝常寺と改めその里を勝常寺村とし、寺領として寄進したと伝える。				○昭和4年（1929）4月6日、虚空蔵菩薩像・地藏菩薩像（雨降り地藏ともいう）国宝に指定される。	
1300	南北朝代	○文和2年（1353）5月8日、勝常寺鐘鐺造成る。（勝常寺の寺名の初見）			現代	○昭和12年（1937）国宝保存法制定される。	
1400		○応永5年（1398）勝常寺修理終わる。現薬師堂（当時の講堂）再建、十二神将再刻。				○昭和25年（1950）5月30日文化財保護法成立により勝常中央薬師堂及び国宝仏は重要文化財と改称された。	
		○室町中・後期にかけての頃、両界大曼荼羅図の絵画制作される。（昭56.3.27湯川村文化財指定）				○昭和36年（1961）7月10日から9月10日まで12軀の仏像大修理行われる。同年10月20日から11月10日まで薬師堂の屋根応急修理が行われる。	
1500	室町時代	○大永5年（1525）5月23日会津の15代目領主羣名盛舜寺領20貫文を寄進する。この頃の寺領は130貫文と伝える（約1,300石）。				○昭和36・37年（1961～1962）の2か年継続事業として、重要文化財仏像保存のための鉄筋コンクリート造り収蔵庫の建設行われ、同37年11月30日完成する。	
		○大永7年（1527）8月21日、河沼之莊笠之面（現、湯川村笠ノ目）の内年貢5貫文の地を領主羣名盛舜より買う。				○昭和38年（1963）1月28日の豪雪災禍により、薬師堂茅葺屋根崩壊したため、同年より2か年継続事業として銅板葺による葺替え工事を施行し、同39年9月30日完成する。	
		○大永8年（1528）5月22日、勝常寺智徳寺の地年貢4貫文の所を40貫文にて領主羣名盛舜より買う。				○平成8年（1996）6月27日、木造薬師如来及び両脇侍像国宝に指定される。	
		○享禄・天文（1528～1554）の時代に中興玄海僧都より9代にて絶え、再び御室仁和寺より覚成僧都下向し10代を継ぐ。この時、中島・兼子・高橋・小林の祖寺侍として随行し來りて住する。					
		○天文23年（1554）9月9日覚成僧都入寂する。					

勝常寺の重要文化財



薬師堂（通称会津中央薬師堂）元講堂
桁行 5 間、梁間 5 間、木造、単層、寄棟造、銅板葺この地方稀にみる大堂宇で和様の手法に唐様を加え、各部の木割大きく荘重の感がある。内部は内外の兩陣にわかれ、内陣は方三間で中央に須弥壇を設け、壇上に厨子をおく。
堂はその構造や細部の手法等からみて、室町時代初期の再建といわれる。須弥壇、厨子もまた当時の優作である。
（明治36年4月15日国指定）



薬師如来

地方稀にみる古像で、像高137.5cm
ケヤキの大材から彫り出してから
前後に二つに割り内ぐりをして、
又剥ぎ合せている。造形よくと
のい刀法もまた整備したもので、
奈良朝の作風をのこした平安初期
の作とみられる。

面相の森厳、体軀堂々その形は極
めてすぐれたものである。

なお光背は欠損があるが当初の
もので、天平時代に流行した宝相華
葡萄唐草を浮彫りし、飛天を配し
た見事な作である。

薬師堂の本尊であって、室町初期
の大堂宇とともに、天下に冠たる
ものがある。

(平成8年6月27日国宝指定)



日光菩薩



月光菩薩

日光・月光菩薩

本尊薬師如来の脇侍である。ケヤ
キの一木彫で天平時代の乾漆の手
法を用い、両像とも願容体軀が豊
満で、普通の弘仁仏にみる背低く
の感じがなく、すらりとのびた天
平様式を多分にもった端麗な容姿
で中尊の作風に似ている。蓮台の
紋様も天平様である。寺伝では日
光・月光両菩薩が逆で、明治36年
国宝指定の時に現在の名称に変え
られたものである。

(平成8年6月27日国宝指定)



十一面観音

勝常寺の他の弘仁仏がすべてケヤキ材であるのに対して、この用材はヒノキかテンらしいと言われる。

体軀に比して頭部やや小さく、穏かな中にも端嚴な相を示している。近世までは大堂宇の本尊であつたらしいが、火災に遭い、いたんだため顔面、天冠等に後世の手法が目立つ。したがって化物・持物・台座・両手先共に後補である。

(明治36年4月15日国指定)



聖観音

ケヤキの一本造りで精練された技巧になる優作である。他像同様原始的鬚波式衣紋で、背低の感なく身体各部の均衡がよくとれ、端麗な相好、流麗な容姿に天平の余韻を残している。蓮台や大き過ぎて、他の失われた像の台座を利用して

(昭和2年4月25日国指定)





持国天



増長天



多聞天



広目天

四天王

邪魔までも一木造りで、動的な強い作風を示し、短軀肥満、体軀全体にいくらかのひめりを与えて、忿怒の表情がよく強調されている。現在多聞天と呼ばれている像の顔を後世彫りなおしているのが、見劣りするが時代の下る像ではない。奈良時代制作の大安寺四天王によく似ているといわれる。
(昭和2年4月25日国指定)



地藏菩薩

顔を彫りなおしているの見劣りするが平安初期の優作であり、雨降り地藏と共に特異な衣紋の手法は天平の遺風と言う人もいる。
(昭和2年4月25日国指定)

地藏菩薩

衲依の手法は天平の遺制ともいわれ平安朝初期の造像にみる高古の趣がある。慈悲柔和にみちた童顔をそなえている。この地藏像は通称「雨ふり地藏」といわれ、大正の初期まで雨請の本尊となり、前の池の島に出し灌水供養が行われていた。
(昭和4年4月6日国指定)





虚空蔵菩薩

一木彫成の像で、此の像も顔面に後世の手が加わり、見劣りするが体軀全体は他の諸像に劣るものではない。
いつの世からか虚空蔵菩薩像と呼ばれているが、形は天部であり、古記録では辨才天像と呼ばれた時代もあるようだ。台座も当初の優作である。
(昭和4年4月6日国指定)

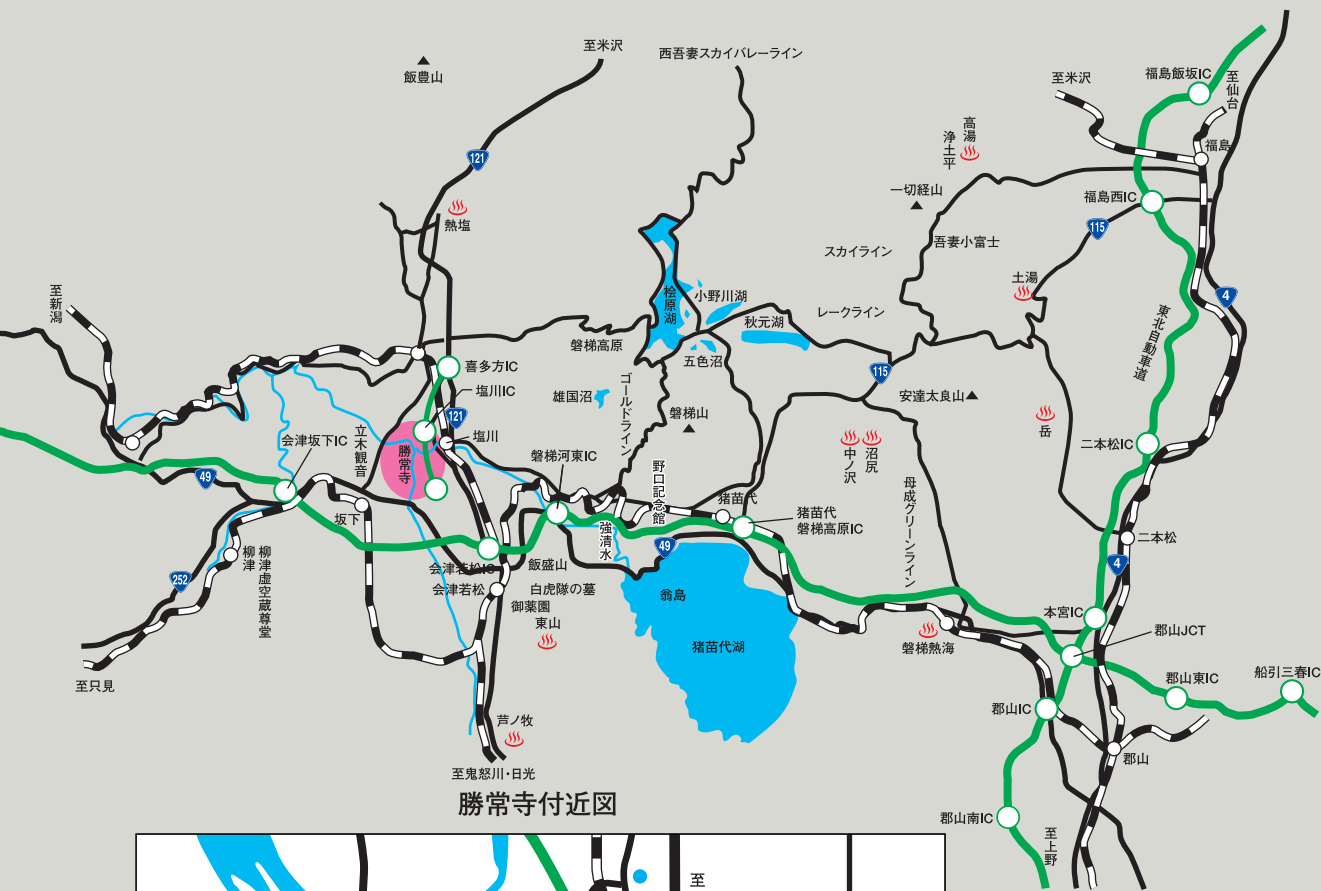


ウォーナと晩翠の碑

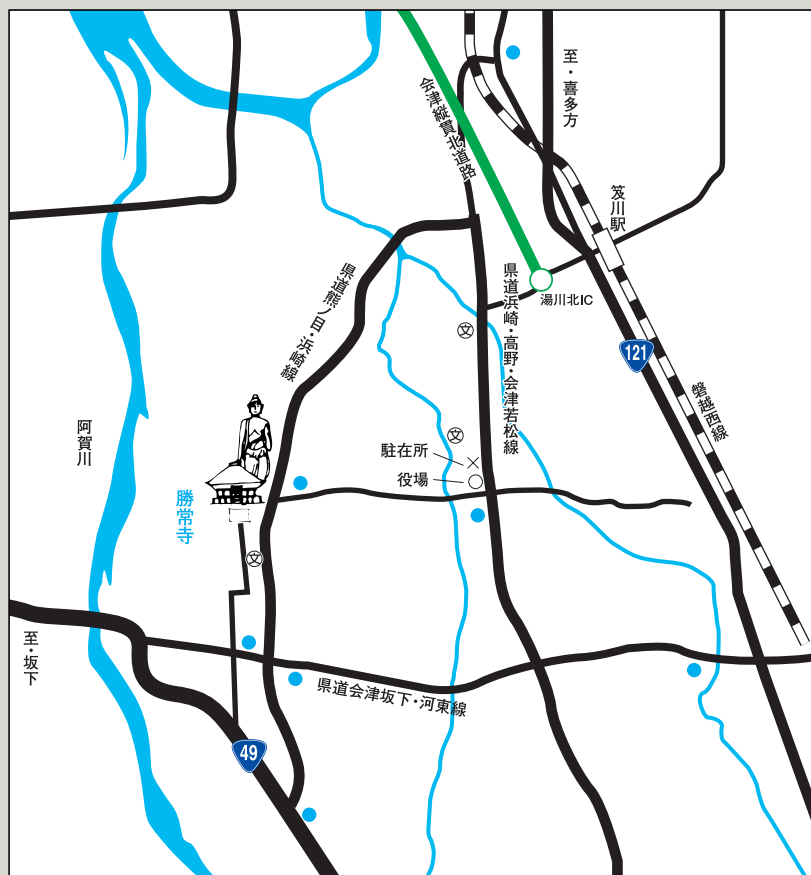
一千余年閱したる
仏像の数十三を
伝へ来りし勝常寺
尊き国の宝なり
秋のけしきの深みゆく
会津郊外勝常寺
仏縁ありて詣うできて
十三像を拝がみぬ
昭和二十一年十一月四日

土井晩翠

勝常寺の文化財一覧（国宝・国・県・村指定文化財）				
種 別	名 称	員 数	指定 年 月 日	
建築（国）	勝常寺薬師堂（会津中央薬師堂）	1 棟	明治36・4・15	
彫刻（国宝）	木造薬師如来及び両脇侍像	3 軀	平成8・6・27	
彫刻（国）	木造十一面観音立像	1 軀	明治36・4・15	
彫刻（国）	木造地藏菩薩立像	1 軀	昭和2・4・5	
彫刻（国）	木造聖観音立像	1 軀	〃	
彫刻（国）	木造四天王立像	4 軀	〃	
彫刻（国）	木造地藏菩薩立像	1 軀	昭和4・4・6	
彫刻（国）	木造天部立像（伝虚空蔵菩薩像）	1 軀	〃	
彫刻（村）	木造徳一菩薩坐像	1 軀	昭和56・3・27	
絵画（村）	絹本着色両界曼荼羅図	2 幅	〃	
絵画（村）	紙本着色真言八祖像掛軸	8 幅	〃	
絵画（村）	紙本着色十二天画像掛軸	12 幅	〃	
彫刻（村）	木造不動明王立像	1 軀	昭和59・7・14	
彫刻（村）	木造十二神将立像	12 軀	〃	



勝常寺付近図



会津バス、会津若松駅前営業所から会津坂下・柳津行バス、佐野下車、徒歩15分。

●案内板設置場所

お問い合わせ

■湯川村役場産業建設課 ☎(0241) 27-8840 〒969-3593 福島県河沼郡湯川村大字笈川字長瀬甲875番地5

■勝常寺 ☎(0241) 27-4566 〒969-3556 福島県河沼郡湯川村勝常

発行／平成25年2月 湯川村役場 企画／産業建設課